

イデックスオイルレポート ~For a month~

2024年5月1日作成 (株)新出光

【月次概況】

●第1週、4/5のWTI原油は、先週比3.74ドル高の86.91ドルとなりました。シリアで1日に発生したイラン大使館領事部への攻撃をめぐり、イランはイスラエルの関与だと断定し、報復を明言。ネタニヤフ首相は4日、イランについて「イスラエルはイランとその同盟勢力に対抗する」と指摘し、攻撃されれば報復措置に踏み切る考えを示した。2国間の緊張の高まりが産油国を含む中東地域全体へ波及すれば、エネルギー供給にも影響が及ぶとの懸念がくすぶり、下値を支えた。

●第2週、4/12のWTI原油は、先週比ドル1.25安の85.66ドルとなりました。12日、複数の米当局者の話として、イランが同日中にも在シリア・イラン大使館空爆に対する報復措置に踏み切る恐れがあると伝えた。米国はイランに自制を促し、中東や欧州各国にもイランを説得するよう働き掛けているものの、今のところ大きな進展は見られていない。

●第3週、4/19のWTI原油は、先週比2.52ドル安の83.14ドルとなりました。イスラエルが19日、イランを攻撃したと報道。イランのメディアによると、中部イスファハンの軍事施設近くで複数の爆発音が確認された。イランによる13日の対イスラエル大規模攻撃の報復とされており、両国の対立激化への懸念が拡大。原油は買いが優勢となった。ただ、今回の攻撃は限定的との見方やイラン政府高官による対イスラエルへの即時の報復計画はないとの示唆を背景に、中東情勢の緊迫化に伴う供給不安が幾分後退。

●第4週、4/26のWTI原油は、先週比0.71ドル高の83.85ドルとなりました。26日、イスラエルとイスラム組織ハマスのパレスチナ自治区ガザでの交戦を巡り、仲介役のエジプト代表団が同日、イスラエルに到着したと報じた。休戦について協議される見通し。一方で、イスラエルはガザ各地で空爆を強化しており、最南部ラファへの地上作戦計画で準備が最終段階に入ったとみられている。

	4月平均	WTI原油	84.39ドル	前月比	3.98ドル	為替 1ドル	154.51円	前月差	3.84円
--	------	-------	---------	-----	--------	--------	---------	-----	-------

日付	補助金	変動幅	変動幅
4/1~4/3	23.3	+3.0	+3.0
4/4~4/10	23.9	+1.0	+1.0
4/11~4/17	28.7	+3.5	+3.5
4/18~4/24	30.0	+1.5	+1.5
4/25~4/30	30.2	-1.0	-1.0

【単位:円/KL】

メニュー価格推移	0.5HPP		ENEOS LS船用燃料油基準価格	
	2024年1-3月C重油決定価格	95,490	98,020	【95,490(メニュー)+2,530(プレミアム)】
	2024年4-6月C重油仮価格	103,500	105,910	【103,500(メニュー)+2,410(プレミアム)】
	2024年4-6月C重油決定価格			
	決定価格1-3月比			

【単位:円/KL】

内航燃料油価格推移	適合C重油		A重油	
	2024年1-3月決定価格	103,420	106,500	
	2024年4-6月仮価格	111,310		
	2024年4-6月決定価格			
	決定価格1-3月比			

CIF価格推移	年/月	9桁速報	原油CIF価格 円/kl	通関CIF ドル/bbl	為替レート 円/ドル	原油CIF価格 前月比
	24/3	9桁速報	78,016	83.00	149.44	137
	24/4	最終予測	83,098	87.21	151.49	5,082
	24/5	展望	86,232	92.63	148.00	3,134
	24/6	展望	85,647	93.26	146.00	-585

【次世代エネルギー】〈IHI原動機 世界初、4ストロークアンモニア燃料エンジンを開発〉

IHI原動機は2024年4月8日、4ストロークアンモニア燃料エンジンを開発したと発表した。内航船(A-Tug:アンモニア燃料タグボート)の主機関に向けたものとなっている。

同社は2023年4月、同社の群馬県太田工場にて、280mmボア(エンジン内のシリンダー直径)の4ストロークアンモニア燃料エンジンの実機を用いた陸上運転試験を開始した。燃料アンモニアの混焼割合を高めており、最大混焼率が95%に達している。混焼率を高めることで、エンジン由来の二酸化炭素排出量を削減できる。また、アンモニア燃焼における温室効果ガス(GHG)の削減率は、重油と比べて最大90%以上となった。加えて、タグボートに要する負荷変動への追従性能をアンモニア運転で確立。運転中や停止後の実機からのアンモニア漏洩がないことも確認している。

これらを受けて、2023年12月に日本海事協会の型式承認試験を受検。アンモニア燃料エンジンでの船級型式承認が発行された。同発表によると、世界初の成果だという。さらに、国際海事機関(IMO)の窒素酸化物(NOx)認証試験も受検。ディーゼル運転モードにおいて、エンジン単体でTier II 規制値を満たしているとの認証を得た。

アンモニア運転モードでは、排ガス後処理装置付きでTier III 規制値と同レベル以下となっていることをNOx鑑定試験により確認している。同発表によると、アンモニア燃料エンジンでのNOx鑑定取得も世界初だという。

今後、アンモニア燃料エンジンやアンモニア供給装置などをA-Tugに搭載し、2024年6月の竣工を目指す。竣工後は、横浜港にてGHG排出削減効果などを検証する計画だ。

出典:MEITEC https://engineer.fabcross.jp/archive/240410_ghi.html

【5月価格変動要因】

●マクロ環境:

・インフレ再燃懸念に伴うドル高・金利上昇がリスク資産の上値の重しとなっている。CPIをはじめとする物価指標は市場予想を上回る伸びを続けている。他、PMIを概観するに米・欧・中の製造業景況感には底打ちの兆しも出てきている。強い需要がインフレを再燃させる場合にはFRBを始めとする金融当局者は高水準の政策金利をより長く維持するバイアスが働きやすく、利下げによる景気下支えの期待は後退を余儀なくされる。

●需給:

・イスラエル・イラン間の衝突は、両者から一層のエスカレーションを望まない旨の発言が出ていることで地政学リスク主導の価格上昇は一旦落ち着きを見せている状況。とはいえイスラエルはラファへの攻撃を強めている他、フーシ派の動きも過激化しており、中東情勢は依然として緊迫化の火種を抱えている状況。従前から指摘している通り、イランやサウジアラビアへ戦火が波及した場合には原油相場は一層の騰勢を示す可能性は否めず、引き続き中東情勢は市場の注目点であることに変わりはない。

●リスク資産・金融市場:

・リスク資産はドル高・金利高が相場の重し。一部ハイテク銘柄に業績の先行き不透明感もあったが、足元は好調な業績が確認されて反発基調。
・本邦ではドル円の円安推移が話題。ドル高はもとより、他通貨対比で円の弱さが際立つ。背景には国内企業によるドル買い・円売りのほか、米国株高を受けたリスク許容度の高まりも円売り要因として機能している。一方、日本休日の間に介入と見られ相場変動も確認されており、ドル円相場には上値の警戒感が漂っている。

<1ヶ月価格見通し> (単位:US/bbl)

	Brent	WTI
High	94	89
Average	88	83
Low	80	75

<3ヶ月価格見通し> (単位:US/bbl)

	Brent	WTI
High	95	90
Average	89	84
Low	83	79

日付	国	5月経済指標カレンダー	日付	国	5月経済指標カレンダー
1	米国	4月ADP雇用統計	15	米国	4月小売売上高
1	米国	4月ISM製造業景況指数	17	ユーロ	4月消費者物価指数(HICP、改定値)
1	米国	米連邦公開市場委員会(FOMC)、終了後政策金利発表	22	米国	米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨
1	米国	パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長、定例記者会見	23	米国	4月新築住宅販売件数
3	米国	4月非農業部門雇用者数変化	24	日本	4月全国消費者物価指数(CPI)
3	米国	4月失業率	30	米国	1-3月期四半期実質国内総生産(GDP、改定値)
3	米国	4月平均時給	31	ユーロ	5月消費者物価指数(HICP、速報値)
3	米国	4月ISM非製造業景況指数	31	米国	4月個人消費支出
15	ユーロ	1-3月期四半期域内総生産(GDP、改定値)			
15	米国	4月消費者物価指数(CPI)			